

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
理事長 木下 宣世 様

2017 (平成29) 年5月16日

監事 南 純 

監事 足達裕昭 

2016 (平成28) 年度 監事監査報告

監査実施日 2017 (平成29) 年5月16日 (火) 11:00~15:30
監査実施場所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム、介護予防センター
対象施設 法人本部及び法人内全施設

監査事項

1 法人本部関係

- (1) 決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- (2) 定款、諸規程の整備状況
- (3) 人事、労務関係
- (4) 国及び県の指導監査状況
- (5) 理事会関係
- (6) 事業報告書

上記を別添監事監査点検表により確認しました。

2 各施設関係

- (1) 決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- (2) 事業報告書に基づく事業運営、利用者の状況、職員の人事等

上記(1)を別添自主点検表により確認しました。

上記(2)を施設長からのヒアリングを中心に確認しました。

監査結果

上記監査事項について、2016（平成28）年度の法人、各施設及び事業の運営状況ならびに財産状況を監査した結果、いずれも適正であった。

なお、特筆すべき点や気付いた点については次に記すので、今後の運営において留意または修正を要する事項については適切に対応されたい。

1 運営全般

社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会は2016年度に千葉県初の「情緒障害児短期療育施設望みの門木下記念学園」を設立し、いよいよ千葉県下でも有数の統合的福祉事業体となった。しかし、そのような成長発展の中で、既存施設の維持管理を含めて、これを支えてきた職員各位のご労苦に深く感銘を覚えます。

さて、今回は2016年度の報告を伺ったが、各事業部のご努力に深い敬意を表すると共に、さらにその発展を期して、今後の課題を指摘しておきたい。

- (1) 法人は創立半世紀を過ぎ、ハード面では施設建物の老朽化も進んでおり、改修・補強・改築なども想定せざるを得ない。したがって、資金面を含めて長期的展望を持った対策を講ずる必要があると思われる。
- (2) ソフト面で、法人全体の職員数が300名を超え、東京・富津・上総湊の三地区に大きく分散している現在、法人の創立精神の継承と職員全体の意志疎通や資質向上が欠かせないと思われる。すでに試みられている諸点の実行と一層の充実を期待したい。

2 経理関係

理事会及び評議員会には出席し、要決議事項について審議され、議決されていることを確認している。又、社会福祉法改正に伴う、新たな手続等もスケジュールに沿って正しく遅滞なく行われていることも確認しています。

- (1) 当年度から会計システムの変更があり、TKCFX4クラウド社会福祉法人用会計システムを導入しました。これにより施設毎に担当者の入力が可能となり、効率的な会計処理が図られたことは評価できます。
- (2) 原始記録としては今迄通り本部及び各施設等の担当者が金銭出納帳に記録し、現金有高金種別残高表にもその都度記載されています。領収書等の証票書類は仕訳伝票の裏面に添付する方法により適正に管理保管されています。
- (3) 各銀行の預金残高証明書および貸付金残高証明書の原票は本部のファイルに保管され、施設（事業所）毎にもコピーを添付しており預金残高および借入金残高を確認しました。
- (4) 有価証券の第1回みずほフィナンシャル劣後社債が売却されており、売却益として金3,131,000円計上されていることを確認しました。
- (5) 寄付金台帳及び寄付金の授受は受取控えにより確認しました。
- (6) 望みの門木下記念学園が開設され、これに伴い相当の備品等の購入が有り、一組又は一個当たり10万円以上の什器備品を減価償却資産に計上するように指導しました。

- (7) 千葉県監査課の指導があり、27年度末支払資金残高が同年度の運営費（措置費）収入の30%を超えないようにとの指摘を受けており「望みの門方舟乳児園」が超過となっている。次回の理事会で第2次補正予算が議案となっているのであれば、積立額を補正して指摘の範囲内となるように修正するよう指導しました。
- (8) 当年度の社会福祉充実残高は、マイナスであることを確認しました。

3 各施設関係

- (1) 東京望みの門については、その貴重な働きを維持するためには高齢化する職員の若返りを段階的に進める必要がある。
- (2) 望みの門学園については、千葉県下唯一の婦人保護施設として貴重な役割を担っている。しかし、県の施設への措置が減少する中で稼働率を上げることは難しく、施設の老朽化や狭隘さもいささか魅力を欠く一因となっていると思われるが、先に指摘されているように、精神障害者の自立支援や生活困窮者自立支援事業への転換も一考に値しないだろうか。
- (3) 養護老人ホーム望みの門楽生園の稼働率は営業努力によって改善されつつあるが、特別養護老人ホーム望みの門紫苑荘との連携なども視野にいれることが出来ないであろうか。
- (4) 特別養護老人ホーム望みの門紫苑荘と望みの門富士見の里については、それぞれ高齢化と介護度アップは避けられないが、職員間の連携を強め、集団感染や食中毒等の発生防止に努めていただきたい。稼働率はそれぞれ順調に維持されていると思われる。
- (5) 児童福祉施設関係の望みの門方舟乳児園と望みの門かずさの里については、それぞれ県の委託に良く応えて成果を発揮していると思われる。今後とも乳児や児童の集団感染や食中毒の防止により、彼らの健康維持の推進を図っていただきたい。
- (6) 児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）望みの門木下記念学園は県下初の施設として創立一年目を迎え、職員も児童も次第に安定した関係を築いていることが伺われる。教育担当の君津特別支援学校職員との連携協力を一層強化し、児童の療育に努めていただきたい。なお、療育福祉部として併設されている児童家庭支援センター望みの門ピーターパンの家や臨床心理室の活動も上総地域における貴重な働きを継続中と思われ、期待される。
- (7) 障害福祉部関係の望みの門新生舎においては、定員を満たしつつ自立に向けての支援が順調に進められていることが伺われる。適正化委員会への苦情も適切に対応されたと思われる。グレースホーム、ヨカデイサービスセンター、ベテルの活動もそれぞれとりたてた問題は無いと思われる。
- (8) 地域福祉部関係のデイサービスは職員不足のためもあって利用者増加が遅れているようだが、新規職員の確保と共に職員の介護力アップにも継続的に取り組んでいただきたい。ホームヘルプサービスについては、地域福祉の重要な一翼を担っており、また今後とも利用者増が見込まれるので、近隣の医療保険施設ともタイアップした対応に努めていただきたい。君津ふくしネットについては、木更津市、袖ヶ浦市の自立支援事業の獲得をもぜひ目指していただきたい。
- (9) 有料老人ホームの望みの門ハイムについては、入居者定員11名に対し現在9名ということで、何とか定員確保が課題であろう。

